

第4回遠賀川流域生態系ネットワーク形成推進協議会

2. 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案)について

令和 3年 7月 28日






(1) 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案):各WGの議論

■ 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案)に対する各WGの議論

WG名	議論内容等
外来生物対策WG	<ul style="list-style-type: none">目的の「新たな観光産業、雇用、経済効果、定住人口の増加を目指す」については、「地域への波及効果を目指す」に変更したい。「外来生物の駆除・取り扱いルールを作成する。」の長期目標は良いが、外来生物全てを網羅することは困難であるため、主眼を「オオキンケイギク・オオクチバス(ブラックバス)」に絞り作成する方向が良いのではないかと。また、どのように取り扱いルールを周知・徹底するのも決めた方がよいのではないかと。
自然環境WG	<ul style="list-style-type: none">基本的には事務局(素案)の内容とする。ただし、素案テーマに示す「冬季湛水」については福岡の事例等認識はなく、一般的ではないことから、冬季湛水等「の試行」という形で進めて行くこととする。素案内に指標としてコウノトリを取り上げているが、コウノトリは中下流では確認されているが、上流にはあまりみられないため、「コウノトリ」についてはツル等の大型鳥類に変更する。
社会環境WG	<ul style="list-style-type: none">基本的には事務局(素案)の内容とする。具体的な取組として、他機関へのイベントに積極的に参加して運営ノウハウを得る。イベント結果をHP,Youtubeにアップする等して情報の集約、見える化する。小学校の環境学習の発表の場として「ふくおか水もり自慢！」等のイベントが活用できないかを検討する。ただし、HPやSNS上での公表は肖像権の問題があるため事前に学校と調整する必要がある。

(2) 現状、課題の整理とテーマ設定

- 各WGにおける現状、課題は以下のとおり。
- 課題を踏まえてテーマを設定する。テーマは遠賀川流域のみならず、世界情勢(SDGsとの関係)、社会情勢も踏まえて設定。

WG	現状、課題	テーマ	SDGsとの関係
外来生物対策WG	<ul style="list-style-type: none"> 外来植物(オオキンケギク等)や外来魚(オオクチバス等)の侵入が課題である。 アライグマ、ミシシippアカミミガメ等の外来生物駆除後の処理が課題である。 外来魚(オオクチバス)の利活用ルール 	外来生物の駆除、取り扱いルール作成による生物多様性の保全と新たな観光産業の創出	外来生物駆除 
自然環境WG	<ul style="list-style-type: none"> 流域内の汚水処理率が低い。河川水質は、改善傾向にあるものの九州の一級水系の中ではワースト上位に位置している。 堰や樋門等の構造物によって、河川の縦断的な連続性、横断的な連続性が喪失している。 農産物の特産品や歴史・文化的な資源が豊富にある。 	減農薬・無農薬農法や冬季湛水等の試行による環境にやさしい農作物の生産とブランド化	水質 経済発展  
社会環境WG	<ul style="list-style-type: none"> 全てのアクションプランの取組は情報収集、共有、学習が必要である。 学校での環境学習(水質、水生生物)が行われている。 住民団体、企業等による環境保全活動も盛んである。 	環境教育を通じた多様な主体間の連携	教育 連携  

参考：SDGsとアクションプランの関係

- 持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり日本としても積極的に取り組んでいます。

出典：外務省HP

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



参考：農産物ブランド化事例（豊岡市）

●豊岡市では、「コウノトリも住める豊かな環境（自然と文化）は、人間にとっても持続可能で健康的に暮らせる環境であるに違いない」と考え、平成14年から農薬や化学肥料に頼らず、環境に配慮してさまざまな生きものを育む稲作技術を目指した取組みを進めています。

●生産された農産物や農産加工品に対する消費者の信頼を高め、消費拡大を促し、農業の安定的かつ長期的な振興を図ることを目的とするブランド化事業も平成16年から進めています。

■認定要件

- ・豊岡市内で生産された農産物または農産加工品であること。
- ・兵庫県が認証する「ひょうご安心ブランド食品」の認証を受けていること。

農産物第1類	節減対象農薬・化学肥料を全く使用しない栽培（色は深緑）	
	 <p>認定ステッカー</p>	 <p>認定ロゴマークステッカー</p>
農産物第2類	節減対象農薬・化学肥料を低減した栽培（色は薄緑）	
	 <p>認定ステッカー</p>	 <p>認定ロゴマークステッカー</p>
農産加工品	「コウノトリの舞」農産物を主原料として製造又は加工（色は黄）	
	 <p>認定ロゴマークステッカー</p>	



(3) 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案): 外来生物対策WG

■ 外来生物WGのテーマと目的の関係 【イメージ】



【テーマ】 外来生物の駆除、取り扱いルール作成による
生物多様性の保全と新たな観光産業の創出

外来生物に関する情報収集、共有、勉強会開催

問題意識の啓発

外来生物の取り扱いルール

外来生物の駆除(在来生物の保全)と新たな観光産業(釣り、食事等)の創出

生物多様性の保全

水辺を利用する人や観光客の増加
等による地域への波及効果

(3) 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案): 外来生物対策WG

	内容
テーマ	外来生物の駆除、取り扱いルール作成による生物多様性の保全と新たな観光産業の創出
目的	外来生物を駆除することにより、生物多様性保全、水辺を利用する人や観光客の増加等、地域への波及効果を目指す。
短期目標 (1~2年)	<ul style="list-style-type: none"> 外来生物について情報発信、テーマ別の勉強会により外来生物の問題点を意識づける(年1回) オオキンケイギク駆除を住民、企業、学校等へ呼びかける
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> 住民・企業・学校等と連携した外来生物駆除を定着させ、外来生物の分布情報をとりまとめ、効果を把握する。(外来生物●●を○%削減、5年に1回程度とりまとめ) 外来生物(オオキンケイギク・オオクチバス(ブラックバス))の駆除・取り扱いルールを作成する。
内容	実施主体が外来生物情報について、HP・SNS・チラシ等で情報発信する。外来生物の分布情報をとりまとめ、効果を把握、HP等で公表する。外来生物の駆除・取り扱いルールを作成、HP等で公表する。外来生物の駆除を通じた新たな観光産業(釣り、食事等)を創出する。
場所	基本的に遠賀川流域全体を対象とするが以下の範囲を重点的に駆除する。 【オオキンケイギク駆除】 ●●市: ○○橋~○○橋(遠賀川一斉清掃範囲と同様) 【オオクチバス駆除】 ◎◎市: ○○橋~○○橋 【オオクチバス駆除・利活用ルール作成】 ○●市: ○●堰~○●橋
時期	オオキンケイギク駆除(毎年5~6月; 春の遠賀川一斉清掃と併せる) オオクチバス駆除(活動期となる夏季)

	地域住民	NPO等	企業	行政		
				国	県	市町村
外来生物の駆除	◎ 駆除	◎ 駆除	○ 駆除	○ 広報 ルール作成	○ 広報 ルール作成	◎ 広報 ルール作成

(3) 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案): 自然環境WG

【テーマ】 減農薬・無農薬農法や冬季湛水等の試行による
環境にやさしい農作物の生産とブランド化

減農薬・無農薬農法(稲作・畑作)の試行

冬季湛水等の試行

河川水質や土壌への環境負荷軽減

大型鳥類(コウノトリ・ツル等)の飛来

環境にやさしい
農作物

水辺を利用する人や観光客(バードウォッチング等)の増加による観光雇用の増加

農作物のブランド化

経済効果

生物多様性
の保全

定住人口増加

(3) 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案): 自然環境WG

	内容
テーマ	減農薬・無農薬農法や冬季湛水等の試行による環境にやさしい農作物の生産とブランド化
目的	農薬が減ることによる河川水質、土壌への環境負荷削減による生物多様性の保全、環境にやさしい農作物を生き物ブランド化し経済活性化。 冬季湛水等の試行による大型鳥類の飛来による観光雇用の増加、定住人口増加に寄与する。
短期目標 (1~2年)	<ul style="list-style-type: none"> 水田・畑、エコジカルネットワーク再生事業箇所等での環境学習や農業体験(田植え・稲刈り、草刈り等)を住民、企業、学校等へ呼びかけ、実施(年1回)、農薬一生物、ブランド化の勉強会
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> 減農薬や無農薬農法への移行、冬季湛水等の試行により農地環境を改善しツル等大型鳥類が継続的に飛来できる環境にする(大型鳥類5年連続飛来) 環境にやさしい農作物を生き物ブランド化する(遠賀川流域で1件)
内容	実施主体が農地環境保全についてHP等による情報発信、農地での環境学習、農業体験。 長期的には減農薬や無農薬農法への移行、冬季湛水等の試行により農地環境を改善、生物多様性を向上し、様々な動植物が生息・生育できる環境を保全する。農地環境を保全された箇所での生き物ブランド化(コウノトリ米、エコネット米等)に取り組む。
場所	減農薬や無農薬農法への移行 ◎◎市 生き物ブランド化 ○○町(コウノトリ米、エコネット米)
時期	環境学習、農業体験(エコネット調査時、田植え・稲刈りの時期) 営農期

	地域住民	NPO等	企業 (JA等)	行政		
				国	県	市町村
農地環境の保全、 生き物ブランド化	◎ 学習・体験 減農薬・無農薬 ブランド化	○ 学習・体験	◎ 減農薬・無農薬 ブランド化	○ 広報	○ 広報	◎ ブランド化

(3) 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案): 社会環境WG

■ 社会環境WGのテーマと目的の関係 【イメージ】

【テーマ】 環境教育を通じた多様な主体間の連携

遠賀川流域が抱える環境上の課題把握(例: 不法投棄、河川水質、森林荒廃など)

課題を踏まえた環境教育のテーマ設定

環境教育素材の収集

【多様な主体間による人材・機材・専門的知識や既存資料の共有】

環境教育の実施

【多様な主体間による人材・機材・専門的知識の連携(合同イベント等)】

流域住民の生物多様性保全
に対する意識醸成

環境教育素材のアーカイブ
(生態系情報図、YouTube)作成

生物多様性の保全

環境教育運営の効率化、
ノウハウの蓄積

(3) 連携・協働アクションプランの当面の取組(素案): 社会環境WG

	内容
テーマ	環境教育を通じた多様な主体間の連携
目的	環境教育による環境保全活動への動機づけ生物多様性の保全、多様な連携・協働体制を構築し人・物のネットワークを形成し環境教育運営の効率化、ノウハウを蓄積する。
短期目標 (1~2年)	<ul style="list-style-type: none"> 既存の環境教育、イベントの開催状況の整理、人材・機材について情報共有、他機関の環境教育、イベントについて情報発信、参加(年1回) 環境教育、イベント等情報は、遠賀川流域生態系情報図等に集約、公表(随時)
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> 人材・機材のネットワークにより他イベントへの参加、合同イベント開催、新たな仕組みづくりの検討
内容	<p>実施主体が遠賀川流域内の環境教育、イベント情報(時期・会場・機材等)を整理し連携できそうなものがないか情報収集、共有する。主催者以外の他機関が環境教育、イベントについて情報発信することで幅広い広報、集客効果が期待される。</p> <p>環境教育、イベントへの参加、人材・機材のやりとりを通して運営効率化、ノウハウを共有する。環境教育、イベント結果はHPでの公表、遠賀川流域生態系情報図、Youtubeに集約することで見える化、共有化、住民への公表により普及啓発をはかる。</p> <p>長期的には他機関との合同イベント、これまで付き合いのなかった住民、学校、学識者、企業間での交流の促進、新たな流域全体の仕組みづくり等を検討する。</p>
場所	各イベント会場(例;ふくおか水もり自慢!会場)、各HP
時期	イベント開催時(例;ふくおか水もり自慢!:毎年12月)

	地域住民	NPO等	企業	行政		
				国	県	市町村
環境教育	◎ 交流	◎ 交流	◎ 交流	◎ 広報 交流 情報図まとめ	◎ 広報 交流	◎ 広報 交流